

WILLナビ(ウィルナビ)-首都圏中学受験・塾・入試・学習情報サイト

▶ WILLナビTOPへ

WILLナビ120%活用法

受験ファミリーのための進学情報サイト



WILLナビTOP



中学校情報



塾情報



ワイワイcafe



メンバー登録

協力/朝日小学生新聞・プレジデントFamily・東京出版・森上教育研究所・安田教育研究所・ワイワイネット、他

TOP

【中学校選び】が変わる!

【塾選び】が変わる!

【ロコミ】が変わる!



よみうりGENKIトップページへ戻る

## 教育座談会

### 今、難関中高一貫校が求める力

<p>司会 サビックス小学部</p>  <p>第二教務部部長 堀口 斉先生</p>	<p>豊島岡女子学園中学校・高等学校</p>  <p>生徒募集入試対策委員 岸本 行生先生</p>	<p>渋谷教育学園幕張中学校・高等学校</p>  <p>入試対策室室長 永井 久昭先生</p>	<p>海城中学校・高等学校</p>  <p>教頭 中田 大成先生</p>
--	--	--	---

SAPIX YOZEMI GROUP

中学受験 SAPIX 小学部

合格のメソッドがあります

教育提言

教育から日本を変える

教育座談会

今、難関中高一貫校が求める力

共学校

- 青山学院中等部
- 片山学園中学校・高等学校
- 慶應義塾中等部
- 渋谷教育学園 幕張中学校・高等学校
- 昌平中学・高等学校
- 西武台新座中学校 (認可申請中)
- 中央大学附属中学校・高等学校
- 中央大学横浜山手中学校 (2012年度より共学化)
- 桐蔭学園中学・高校(男子部/女子部) 中等教育学校(男子のみ)
- 桐光学園中学校・高等学校
- 東邦大学付属東邦中学校・高等学校
- 日本工業大学駒場中学校
- 八王子学園八王子中学校
- 広尾学園中学校・高等学校

中高一貫教育を行う男子校、女子校、共学校で入試を担当する3人の先生方に、中学入試問題に込められた学校の思いや作問方針、採点の仕方などをお聞きするとともに、模擬試験の活用法についてのアドバイスなど、あまり語られることのない貴重なお話を伺いました。進行役はサビックス小学部第二教務部の堀口斉部長です。

- 1 入試問題には各校の特色が
- 2 出題される問題はこんな視点で作られる
- 3 これまでの総復習と苦手の克服を
- 4 模試の結果を本番の力に変える
- 5 志望校を目指しがんばれ受験生

### 入試問題には各校の特色が

堀口 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。早速ですが、まず各校の特色ある教育理念についてお聞かせいた



けますか。

**岸本** 豊島岡は「道義実践」「勤勉努力」「一能専念」という三つの教育目標を掲げていますが、一言で言えば、「喜びと感動を与える教育」を目指す学校です。

**永井** 渋谷幕張の教育目標を最も端的に表している言葉は「自調自考」です。与えられた知識を覚えるだけではなく、自らの手で調べ、自らの頭で考える。そうした力を伸ばす校風の下、何事にも積極的に取り組める生徒を育てていきたいと考えています。

**中田** 海城が選択する教育的立場は、「リベラリズム」です。ただし、なんでもありの「自由至上主義」や、「ネオ・リベラリズム」の立場は取りません。我々が標榜するのは「自由」の前提に「公正（フェアネス）」という価値を位置付ける「公正基底的リベラリズム」です。ですから生徒たちには、まずは「立場を入れ替えた時に受け入れられないことはよしとしない」態度すなわち「公正としての正義」を身につけてもらいます。そして、最終的には“リベラルでフェアな精神”を持った「新しい紳士」に子供たちが育ち上がることを、それが我々の理想です。

**堀口** 中学入試問題に関しては、受験生やその保護者に対して、どんなメッセージを込めて作成されているのでしょうか。

**岸本** 豊島岡の入試問題は、知識を持っているか、理解できているかという点だけを測るものではありません。与えられた条件のなかで、自分なりに試行錯誤して突破口を見だし、解決に至ることができるかどうかを重視して作問しているのが特徴です。それは、本校がそういうことのできる生徒を育てたいというメッセージでもあります。

**永井** 渋谷幕張では次世代のリーダーをどう育てるかを常に考えており、入試問題も「自調自考」という本校の教育目標を踏まえて作問しています。受験生が毎年2000名を超えるので、すべて記述問題というわけにはいきませんが、発想力や想像力を見ることを念頭に置き、既習知識の多寡にとどまらない真の実力をみます。ですから、知識の蓄積と応用力を試すような問題、読解力や論述力を必要とする問題を出題しています。例えば、理科の問題で、一方のコップには水、もう一方のコップにはとても濃い食塩水が入っており、それをなめずに判別する方法を答えさせる問題を出したことがあります。解答には、学校や塾で習った知識をもとにしたものばかりでなく、例えば、温泉に行ったときに、せっけんが泡立たなかったことをヒントにして、「せっけんを溶かしてみる」とか、家庭でのお手伝いの経験から、「リンゴを漬けてみる」などといった面白いものが沢山ありました。どれだけ沢山のことを、どれだけ沢山覚えたら、ということだけではなく、普通の生活の中から見つけた素晴らしい解答ですね。仮に答としては間違っている、考える筋道に光るものがあれば評価したいと思います。

**中田** 「国家社会に有為な人材を育成する」というのが海城の建学の精神であり、現代において有為な人材とは、学力と人間力のバランスが取れている人材であると考えています。入試で測るのは学力の部分のみになってしまいますが、学力にも、時代が要請する「新しい学力」と、知識あるいは基礎問題を解く能力といった「従来型の学力」があり、その両方をきちんと見ることが大切だと考えています。

「従来型の学力」については、自分の持っている知識と新たに入ってくる知識を関連づけて、広がりを持たせていくことができるかを見るような問題を作っています。また、「新しい学力」については、20年ほど前から社会科でクリティカル・シンキングの力を問う問題を出題しています。そこでは、与えられた文章や図表の中の情報をきちんと分析し、関連づけ、何らかの答えを自分で導き出して記述するという総合的な能力を問います。ただし、一般入試においては採点時間の物理的制約もあり、受験生の経験や既習知識を総動員して論述してもらう完全自由記述の問題は出題できません。

そこで、一般入試の論述問題においては、あくまでも与えられた情報の中で答えを組み立てていくような限定した問題にしています。一方、今年度から始めた帰国生入試における「総合」の問題では、採点時間にゆとりがあるので、OECDが行うPISAの読解力テスト等に見られる“完全自由記述”の問題も出題しています。



- 法政大学中学高等学校
- 宝仙学園中学高等学校共学部 理数インター
- 明治大学付属明治高等学校・中学校



- 麻布中学校・高等学校
- 海城中学校
- 開成中学校・高等学校
- 佼成学園中学校・高等学校
- 函館ラ・サール中学校・高等学校
- 武蔵高等学校中学校
- 早稲田大学高等学院中部



- 江戸川女子中学校
- 陽友学園女子中学校
- 惠泉女学園中学・高等学校
- 女子学院中学校・高等学校
- 豊島岡女子学園中学校
- 雙葉中学校・高等学校
- 普連土学園中学校・高等学校
- 三輪学園中学校・高等学校
- 山脇学園中学校・高等学校
- 和洋国府台女子中学校・高等学校

▲ PAGE TOP

## 出題される問題はこんな視点で作られる

**堀口** 出題のポイントは、どういったところにあるのでしょうか。

**岸本** 豊島岡では、各教科とも、分野に偏りなく出題するよう心掛けています。ですから、理科は物理・化学・生物・地学の全分野、社会も地理・歴史・公民の全分野から出題しています。女子の場合は、地理や公民が苦手な子も多いので、そうしたバランスを考えて出題する女子校もあるようですが、本校の場合はあえてそういうことはせず、二つの分野にまたがる問題もそれぞれの教科で出すようにしています。算数も、女子は図形が苦手だといわれていますが、あえてそのような内容を踏まえた、総合的な問題を意識して作問するようにしています。



また、本校の入試は問題数が多いため、解けそうな問題を見極める力とスピードが要求されます。算数でも解答の過程は書きませんが、しっかり手順を踏んでいないと、正解にたどり着けないような問題を意識して作っているのが特徴です。

**永井** 渋谷幕張の場合は、既習知識だけではなく、読解力や論述力が問われる問題が多く出ます。国語はもちろん、理科や社会でも例年、記述問題を出题しています。例えば、社会の問題でも、歴史的な内容を問う知識の問題であると同時に、読解力・理解力・記述力を問う国語の問題でもあるような問題が出されたケースもあります。ですから、採点にはかなりの時間がかかりますが、細かい基準をたくさん設け、丁寧な採点を心がけています。

**中田** 海城の場合、各教科で共通する出題のポイントは、問題を解くための試行錯誤をいとわない受験生が合格できるような作問を理想としていることです。それは、社会が複雑化していくなかで、そもそも答えがあるのかどうか、あるとしてそれが一つであるのか複数ありうるのかが自明でないような答えを何とか探し出す姿勢が必要となる時代を我々が生きているからです。もちろん、基礎的な問題や解法のパターンで勝負できるような問題もありますが、論述問題も非常に多いのが特徴です。

▲ PAGE TOP

## ■ これまでの総復習と苦手克服を

**堀口** 来年受験を控えた小学6年生は、あと半年でどのような学習上の準備をすればよいとお考えですか。

**岸本** 受験を考えている子たちはほとんど塾へ行っていると思いますし、この後、塾では志望校の過去問を本格的に解いていくことになるでしょう。だから夏から秋の初めにかけては、その準備として、これまでの知識をきちんと定着させ、確かなものにすることが大事です。夏期講習でも、これまでの総復習をしていると思いますが、それは、本当に大切なプロセスです。また、総復習をする際に大切なのは、苦手な分野を重点的に克服すること。特に豊島岡の場合は、すべての分野から出題しますので、苦手な分野をできるだけなくすようにしていただきたいと思います。

中学に限らず、すべての受験でいえることですが、基礎を積み重ね、それを繰り返して定着する期間はとても大事です。

模試の結果にすぐ反映しないもどかしさもあるかもしれませんが、それをしないと、最終的に力を発揮できる状態にはならないでしょう。

**永井** 私立学校には多様な学校があり、入試問題にもその学校のアドミッション・ポリシーがあります。だから、その学校の入試問題をよく分析し、よく練習することが大切です。例えば、渋谷幕張では、算数で毎年必ず出る作図の問題があります。

このような分野で学習経験のある問題が出題されていた場合は、受験生は自信を持って試験に臨むことができます。

**中田** そうですね。私立は、出題にそれぞれの学校の個性が出るといいます。とはいえ、従来型の学力、いわゆる知識問題や計算問題、あるいは解法のパターンが確立されているような問題は、ほぼどの学校でも出題されるわけですから、それに対応できる力はつけなければなりません。その際、知識を実践的に使うためには、ただ頭に入れるのではなく、きちんと使いこなせるように整理して頭の中に入れておく必要があるのです。つまり、知識同士の関連性をきちんと押さえながら頭に入れることです。そのためには、自分の知識を図表化したり、マインド・マップ風書き表して関係性をビジュアル化して確認したりするのも良い方法です。また、これから先は塾で知識を重要度順に並べた教材が配布されることもあると思いますが、そういう教材を、今度は自分の不得意順に並べ替えておくのです。

そうすると、残り6か月が、2か月、1か月と減ったときに、何を優先してやればいいのかが目瞭然となります。また、算数の計算問題や解法のパターンが確立されているような問題については、正確に速く解くことが必要になってきますから、それには時間を区切って解く練習が有効です。そうしたやり方をすれば、どこの学校にも共通する「ベースの学力」を養うことができます。そこから先の応用問題や記述問題については、簡単に解法を見るのではなく、できなくても自分の頭で試行錯誤しながら考えることが大切です。過去問を解いた後も、なぜできたのか、なぜできなかったのかをよく考えてみる。すると、自分はどこが得意でどこが苦手なのか分かるので、弱点を押さえ、有利なところをより伸ばすことができるでしょう。

▲ PAGE TOP



## 模試の結果を本番の力に変える

**堀口** 実際の入試に先立って、サピックスオープンなどの模擬試験をどのように活用すればよいとお考えですか。

**岸本** 模試は、決められた場所で、時間を意識しながら問題を解く、良い機会です。模試の後は、不正解だった問題をきちんとできるように復習することはもちろんですが、できた問題も、「もし、この問題の選択肢が別のものだったらどうだろう」などといった、踏み込んだ復習ができれば、より実力を向上させることができるでしょう。また、模試で算出される偏差値で最終的な志望校を決めがちですが、入試は偏差値だけですべてが決まるわけではありませんし、本番の入試は模試から時間を置いて行われるので、そこから子どもの力は大きく伸びる可能性があります。ですから、結果だけにとらわれないことが大事です。



**永井** そうですね。わたしも全く同感です。やはり、自分が苦手な科目・分野をきちんと押さえて勉強することが大切です。

また、偏差値や順位を見るためだけ、あるいは場慣れするためだけに模試を利用するのではなく、自分に自信を持つ材料にすることも必要でしょう。仮にトータルで成績が悪かったとしても、正答率の低い問題を正解した場合などはプラス思考で自信を持つことも大切です。

**中田** 模試は自己の学力を相対化・客観化する最良の機会。だから、その結果を受けての復習はとても大事です。正解した問題も、たまたまではなく、きちんとした根拠で選択肢を選んだのかどうか。そういうことも含めて客観的な分析をし、自分の力を確認する必要があります。そのうえで自分の強い分野や弱点を把握する。特に進学塾が行う模試の問題は、頻出分野のポイントをよく押さえているので、模試で出題された問題は本番でも出る可能性が非常に高いと想定し、絶対に間違えないように、きちんと復習することが大切です。また、模試を受ける際に得点目標を掲げる、問題演習をする際に時間を短めに設定するといったように、ある程度自分に負荷を掛けて臨むことも必要でしょう。

▲ PAGE TOP

## 志望校を目指し がんばれ受験生

**堀口** では、最後に、受験期を迎えた小学生にメッセージをいただければと思います。

**岸本** 本校は女子校ですが、「女子だから」「男子だから」という違いがあってはならないと考えます。自ら手を動かして工夫することを惜しまないたくまい生徒に来てほしいのです。そしてそれは、入試においても自ら試行錯誤ができる生徒だと思っています。

**永井** 受験に必要な学習は、自分が本当にやりたい学びとは必ずしも一致しないかもしれませんが、合格するためには、誰もが通らなければならない道です。中高時代と言うものは、自分のアイデンティティを確認しながら、学びの面白さが分かってくる輝きに満ちた時期です。そうした場に進めることに喜び、励みを感じて、がんばり抜いてほしいですね。

**中田** 学びの究極の形は、すごい人物を見て、自分もそうなりたいと“感染”することだと思います。だから子どもたちには、何かを感じ取れる感受性を持ってほしいですね。そして、自分もそうなりたいと思ったときに、利害を超えてそれに向かって行ける姿勢を持ってもらいたい。志望校も、学校のブランドや偏差値だけではなく、過去の入試問題を見て、「この学校はいいな。自分に合っているな」という感受性で選ぶことはとても大事だと思います。

**堀口** 各校の入試問題に込められた意味があらためて理解できました。今日は、貴重なお話をありがとうございました。

▲ PAGE TOP